



河村尚子 ©Hirofumi Isaka



池上英樹 ©Yuji Hori

11.8 [土] 河村尚子 ショパン・プロジェクト 第1回「バラードとノクターンを中心に」 新シリーズがいよいよ開始。河村尚子、ショパンへの愛を語る。

文 関根哲也

河村尚子さん インタビュー

—河村さん、この度水戸芸術館にお招きできますこと、大変光栄に思います。はじめに、「水戸」に対して何かイメージをお持ちでしたら、お聞かせください。

河村尚子：やはり「水戸黄門」でしょうか？私は5歳の頃からドイツのデュッセルドルフにて育ちましたが、家族は日本の環境を作っていた為、両親が「いつ見てもホッとする」水戸黄門は、ビデオや3年間に一度だけ日本に一時帰国した際に見ていました。

そして納豆が大好きな人間にとって水戸の本場の納豆を一度でも良いから食べてみたい、という想いを馳せているため、秋の水戸訪問が大変待ち遠しいです。

しかし最も楽しみにしていることは、音楽的大イベントや立派な施設からも有名な水戸芸術館に初めて出演させて頂けることです。

—河村さんのショパンの演奏をお聴きしますと、作曲家ショパンに対する愛情を強く、ひしひしと感じます。もし、それを、河村さんのお言葉で表現するとし

たら、どのようなものになりますでしょうか。

河村尚子：きっとそれは長い旅の中、様々な素晴らしい経験をして素敵な人々と知り合った後、我が家に帰宅したときの安堵感に似ていると思います。

私はポーランド人ではありませんが、10代の頃からポーランド人のピアノ教師からショパンへの愛情を見近に感じ取り、受け継ぎました。どこか両親の「水戸黄門」を見てホッとするという感覚に当たるのが、私にとってのショパンの音楽なのかもしれません。

—第1回はバラードとノクターンを中心にプログラムが組まれました。バラードとノクターンは、それぞれ、ショパンの作品の中でどのような位置をしめているとお考えでしょうか。

河村尚子：どちらもショパンが若い頃から晩年まで作り続け、後世の音楽界に残るジャンルへと完結させたといっても過言ではないかと思えます。

ノクターンの楽譜を眺めてみても分かるかと思いますが、初期、中期、後期の

作曲法にかなりの変化を観察できます。左手の伴奏、右手の優美かつメランコリックなメロディーで作られていた初期のノクターンも、後期に近づくと、左手がどんどん複雑なハーモニーを含んで主旋律にまできています。

またバラードは、若くして離れなくてはいけなかった故郷ポーランドへの想いが詰まっているのではないかと個人的に思います。フランスの文学を読んだ上で、音楽を作る事も出来たかとは思いますが、ショパンはバラードを、同じくポーランド出身のミツキエーヴィッチの詩に触発されて作曲した、と言われています。4曲あり、それぞれ曲の構成は違いますが、ドラマ性、技術的難度、知名度も高く、ピアニストにとって取り組み甲斐がある作品なのではないでしょうか。

—ショパンがシューマンに捧げた曲や、ショパンの歌曲をリストが編曲したのも演奏されます。ショパンとシューマン、あるいはショパンとリストの関係についてはいかがでしょうか。

河村尚子：1830年から50年代に行われた音楽家の交流というのは、今から考

えると、かなり羨ましいものだったと思います。ロマン派の作曲家のうち最も有名、かつ実力派の音楽家たちの仲が良く、お互いの理想やアイデアを提示し合い、触発しつつ、それぞれの創造力を高めていました。ある一部の例を挙げるとすれば、メンデルスゾーン、シューマン、ワーグナー、リスト、ショパン、ベルリオーズ。敬意、友情があったからこそ、音楽家に自分自身の作品を捧げることができたのではないのでしょうか。特にシューマン、ショパン、リストはピアノを自分自身の表現の楽器として用いていたので、通じ易いものがあったのではないかと思います。

——第2回以降のプログラムについて、決まっている範囲でお教えいただければ幸いです。

河村尚子：それぞれショパンが一定の時期に作曲した作品や人生を通して手がけたジャンル、そして私自身がまだ挑戦したことのない曲目を入れてプログラミングしていくことになっています。例えば第3回目では「24の前奏曲」に挑戦したいと考えています。

——最後に、水戸のお客様に向けてご自由にメッセージをお願いいたします。

河村尚子：初めて私の演奏を聴いて頂くお客様が多いかと思いますが、ショパンの作品の中で知名度の低いものから高い作品までを聴いて頂き、新たに皆様の中で新鮮なショパン像を作ってくれれば嬉しいです。また、この秋から数年間の付き合い合いとなりますが、私の音楽家としての成長を見届けて頂ければ幸いです！

2014年8月Eメールにて
(協力：ジャパン・アーツ)

期待の新シリーズが始動！

同じ1810年生まれの作曲家ローベルト・シューマンが「諸君、帽子を取りたまえ！天才だ。」と評して、その比類ない音楽的才能をヨーロッパの楽壇に紹介してから、フリデリック・フランツェック・ショパン（1810～49）の名前は、ピアノ愛好家に限らず、広く音楽愛好家の間で、忘れられたことはなかったのではないのでしょうか。現代にまで続くその人気と魅力の秘密を解き明かそうというのが、今回の新シリーズのねらいです。

ご案内役は、日本を代表する若手ピアニストの一人、河村尚子さん。5歳で渡独、ハノーファー国立音楽芸術大学で名教授ウラジミール・クライネフに師事し、その才能に磨きをかけました。2006年のミュンヘン国際コンクールで第2位に入賞、2007年のクララ・ハスキル国際コンクールでは優勝し、一躍世界の注目を浴びました。

その後のめざましい活躍は、皆様もご存じのとおりです。国内の主要オーケストラとの共演はもちろん、フェドセーフ指揮モスクワ放送交響楽団、ルイージ指揮ウィーン交響楽団、ヤノフスキ指揮ベルリン放送交響楽団といった世界のオーケストラとの共演も重ねています。昨年11月にはピエロフラーヴェク指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団と共

演し、日本ツアーも実施。筆者も聴いてまいりましたが、通常のラフマニノフのイメージを覆すような、清新な〈ピアノ協奏曲第2番〉の演奏を披露し、聴衆から大喝采を浴びました。

しかし、河村さんのピアノの魅力を十分に味わうには、やはりリサイタルが最高です。今年6月30日に行われたリサイタルでは、ショパン（バラード第1番ほか）、ラフマニノフ（コレッリの主題による変奏曲）、ムソルグスキー（展覧会の絵）が演奏されましたが、ピアノという楽器のポテンシャルをフルに発揮し、最大限鳴らしつつ、実にしなやかなタッチで、ニュアンス豊かに各作曲家の世界を表現していました。特にショパンの演奏では、インタビューで「我が家に帰宅したときの安堵感」と表現している、河村さんのショパンの音楽に対する親近感がひしひしと感じられ、今秋から始まる「ショパン・プロジェクト」への期待が一層高まりました。

さて、プロジェクトの第1回は、ショパンが新ジャンル創出の気概をもって取り組んだバラード（全4曲）と、ロマンティックな夢と憧れが綴られるノクターンを中心に取り上げます。リストによる歌曲のピアノ編曲版、幻想的な〈子守歌〉とともに、心ゆくまで堪能ください。

河村尚子
ショパン・プロジェクト（全4回）
第1回「バラードとノクターンを中心に」

11/8土 15:30 開場
16:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 一般 3,500円

ユース（25歳以下）1,000円

出演 河村尚子（ピアノ）

曲目 フリデリック・フランツェック・ショパン：
ノクターンへ長調 作品15の1
バラード第2番へ長調 作品38
17のポーランドの歌 作品74より
〈私のいとしい人〉（乙女の願い）（リスト編曲）
ノクターン変イ長調 作品32の2
バラード第1番ト短調 作品23
ノクターン変ホ長調 作品55の2
バラード第3番変イ長調 作品47
子守歌変ニ長調 作品57
ノクターンへ短調 作品55の1
バラード第4番へ短調 作品52



河村尚子 ©Hirofumi Isaka

11.24 月・祝 ちょっとお昼にクラシック 池上英樹（マリンバ、打楽器）

文 篠田大基

地球は回り、いつもどこかで音楽は響く

ランチタイムの人気コンサートシリーズ「ちょっとお昼にクラシック」。9月に大好評だったギターとバンドネオンのコンサートに続き、今年度2回目となる11月24日のコンサートでは、マリンバをはじめ、いろいろな打楽器の音楽をお楽しみいただきます。1時間のコンサートのなかで、親しみ深い名曲にも未知の音楽にも、きっと出会うはず。

いま〈ツィゴイネルワイゼン〉の演奏映像を観ています。スペインの作曲家サラサーテが作ったヴァイオリンの超絶技巧曲です。ご存知の方も多いことでしょう。今年2月の「ちょっとお昼にクラシック」では、佐藤俊介さんのヴァイオリンと鈴木優人さんのピアノでお送りしました。けれど、いま観ているのはヴァイオリンではなく、マリンバとピアノによる演奏。今度のコンサートにご出演される池上英樹さんのDVD『Toucher（トゥーシェ）』（COOLFRAME CLFR-1001）に収録されたライブ映像です。

マリンバで演奏する〈ツィゴイネルワイゼン〉。たった2本のマレットから繰り出される、とてつもなく速いパッセージや音の跳躍を聴いたら、興奮すること間違いなし！ でも、池上さんのこの演奏の魅力はそれだけではありません。マリンバなのに、不思議とヴァイオリンの響き、その独特の音の震わせ方や弓の動かし方を、どこか彷彿とさせる演奏なのです。〈ツィゴイネルワイゼン〉は、水戸芸術館でのコンサートでも演奏されますので、一緒にこの感動を味わっていただけたらと思っています。

なぜマリンバからヴァイオリンの響きが？ その答えは池上英樹さんのユニークな音楽歴にあるのかもしれませんが。池上さんはもともと、ジャズやロックのドラマーとして活動を開始しました。少年

時代はハードロック好きだったとか。ところが18歳で突然クラシックを学ぼうと決意。そのきっかけが、ヴァイオリンの演奏を聴いたことにあったそうです。「でも当時は何にショックを受けたかも良くわかっていませんでした。今考えると、“歌”の魅力とあり得ない精神的な高みを見たから、ということでしょうか」（『intoxicate』2006年10月号のインタビューより）

“歌”——それがその後、池上さんの追究するテーマのひとつになります。日本の大学を卒業後、ヨーロッパに留学した池上さんは、打楽器の技術にさらなる磨きをかける一方、オペラ歌手やヴァイオリニストといった他分野の音楽家からも教えを受けて、打楽器による“歌い方”を探究するようになります。1997年のミュンヘン国際コンクールでは打楽器部門最高位入賞。日本では、一昨年のサントリーホール「サマーフェスティバル」でクセナキスのオペラ〈オレステイア〉に出演し、圧巻の打楽器ソロを披露。その迫力に多くの聴衆が息をのみました（私もその一人でした）。

ジャズやロックからクラシックへ、打楽器から歌へ。しかも池上さんの興味はそこにとどまらず、さらなる広がりを見せています。現在、池上さんは打楽器の演奏だけでなく、フラメンコなどのダンスの身体表現を取り入れたパフォーマンスも展開しています。11月のコンサートでも、池上さんのソロ・パフォーマンス作品《MOSAIC（モザイク）》の一部が上演されます。作品のなかでは、ドラムやシンバルのほか、特注の大型カホン（木箱型の打楽器）のようなユニークな楽器が使われ、そこにダンスが加わり、音楽と踊りが混然一体になった情熱のステージが繰り広げられます。

今回のコンサートに向けて、池上さん

と打ち合わせを重ね、水戸芸術館でしか聴けないプログラムを練り上げました。打楽器だけでなくダンスも学んできた池上さんにふさわしく、ソロ・パフォーマンス《MOSAIC》を中核に、いろいろな国の音楽、異なるジャンルやスタイルが混ざり合った音楽を選んでみよう——話し合いのなかで、そんなコンセプトが浮かび上がりました。ヴィラ＝ロボスの〈ブラジル風バッハ〉はその典型。題名のとおりに、ブラジルの民俗音楽をバハ的な書法で再構築した作品です。有名な映画音楽〈シェルブールの雨傘〉も、今回はショパンの〈雨だれの前奏曲〉が聴こえる洒落た編曲でお届けします。先述の〈ツィゴイネルワイゼン〉も、クラシックの伝統的なヴァイオリン奏法のなかにジプシー音楽の奏法を取り入れて作られた作品でした。

地球は回り、いつもどこかで音楽は響く。土地から土地へ音楽が伝わり、交わり合い、新しい音楽が生まれる。考えてみれば、それはまるで奇跡のよう。「そんなこの世界に想いを巡らすとき、今いるココ（此処／個々）がとても愛すべきものに思えるのです」。池上さんは、そう語ります。打楽器が歌い、奏者が踊り、全身で表現される地球の息吹。そのエネルギーは、聴く人すべてを熱くさせるはずです！

ちょっとお昼にクラシック
池上英樹（マリンバ、打楽器）

11/24 月・祝 13:00 開場
13:30 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 1,500円（1ドリンク付き）

出演 池上英樹（マリンバ、打楽器）

柴田かんな（ピアノ）

曲目 J.S.バッハ：無伴奏バルティータ 第3番

ホルン BWV1006 より 前奏曲

ヴィラ＝ロボス：

ブラジル風バッハ 第5番より アリア

ルグラン（長生 淳 編曲）：シェルブールの雨傘

池上英樹：Mosaic（モザイク）より

ゾーン：ロードランナー

サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン

11.16 日 at 15:00 宇野陽子 チェロ・リサイタル

!!!!!!!!!!!!!!
全く衝撃的な体験だった。それは、言葉ではとても表すことのできない感動で、その気持ちを唯一表現し得たのが、あの涙だったのだと思う。十代の私は、初めて客席で泣いたのだった。

そしてそれは、ヨーヨー・マが奏でるラフマニノフのチェロ・ソナタだった。その傍らで舞っていたのは、坂東玉三郎だ。客席のあちこちから、鼻をすする小さな音が響いていた…。

絶対にこの曲を弾いてみたい!!
以来憧れ続けたこの作品は、実は既に東京でのリサイタルで取り上げたこともあったのだが、再び芸術館の舞台に立てるのならやはりこの曲!と、今回のプログラムのメインに据えることにした。

この曲は大曲なので、体力的にとて

もエネルギーを消耗する。でも不思議なことに、弾き進むにつれ、だんだんと内なるエネルギーが充実してくるのだ。

苦しみも、やがて喜びになる。まるでベートーヴェンの第九交響曲だが、ラフマニノフ自身、鬱を患うほどの長いスランプののちに書き上げたのが、あのピアノ協奏曲第二番であり、このチェロ・ソナタだったのだ。そこには、絶望や不信に打ちのめされてもなお、生命を肯定して立ち上がる、作者の力強い意思を感じる。今は、複雑で美しいこの曲の和声を読み解くのが、楽しくて仕方がない。

今回のリサイタルでは、ほかにも様々な和声感・色彩感を楽しめることと思う。端正で大胆なバッハ、ロマンティックなシューマン、詩的で繊細

なミヨー…。18世紀・19世紀・20世紀と、それぞれ活躍の時代も違だし、もちろん作風も違う。だが全て、21世紀に生きる私にとっての、愛すべき曲たち。

命をかけて、命を削って書き上げられたその曲たちに、命を吹き込むのは、私の仕事だ。丁寧にそれらの作品と向かい合い、作者の声に耳を傾け、そして、自分自身と向かい合う。



当日足を運んでくださる方々には、そんな人生をめぐる旅を楽しんでいただけたらと思う。

宇野陽子

11.30 日 at 15:00 山本 徹 バロックチェロ・リサイタル



15年ほど前に水戸芸術館で聴いた鈴木秀美氏の無伴奏チェロリサイタルは、バッハを演奏する際私がこれまで抱いていた疑問やわだかまりを払拭するもので、私がオリジナル楽器(作曲された当時の様式の楽器)に出会い、鈴木氏のもとで学ぶきっかけになりました。その後の留学を経て再び日本で活動を始めるにあたり、私とバロックチェロとの出会いの場である故郷・茨城の水戸芸術館に感謝を込めて、この度、このような演奏会を企画させていただきました。

バロックチェロに張られている羊

の腸を撚り合わせて作られたガット弦は言葉の様々な子音を楽器で模倣するのに適しており、流線型のバロック弓は音の減衰を作りやすく、今回演奏するガブリエッリの〈リチェルカーレ〉やその周辺の作曲家の作品、バッハの〈無伴奏チェロ組曲〉のような、「歌う」よりも「話す」音楽にぴったりな道具です。そして、いずれの曲も独奏曲でありながら、まるで落語のように一人芝居を演じ、あたかも登場人物同士を会話させるような愉しみが 있습니다。

ガブリエッリの〈リチェルカーレ〉は、チェロのために書かれた初めての独奏曲であり、まるで何かの通奏低音を弾いているように始まる不思議な作品です。第3番は金管楽器が活躍した当時のポローニャを彷彿とさせるファンファーレのよう、また

リチェルカーレという言葉には練習曲、習作の他に思索という意味もあり、第7番は我々を文字通り沈思の世界へ誘います。

一方バッハは、鍵盤楽器のための曲をそのままチェロ1本のために編曲したような構造ゆえの、一筋縄ではいかない難しさがあります。チェロのような旋律楽器では全ての声部を同時に鳴らすことは出来ないので、如何に聴き手である皆様の想像力をかき立て、隠れた声部をその想像力で補っていただけるよう弾くかが、弾き手にとって腕のみせどころです。

秋の深まるころ、昔の響きに思いを馳せ、現代の楽器とはまた異なる風合いの音色と言葉遣いとを多くの皆様に楽しんでいただければ幸いです。

山本 徹

最近の公演から

2014.8.16

あなたに、わたしに、世界に Peace “パイプオルガン・プロムナード・コンサート”

水戸空襲や広島・長崎への原爆投下、そして終戦を迎えた8月を「戦争と平和を考える月間」として、水戸市平和記念館、水戸市立博物館、水戸芸術館の3館が連携して開催した「ぴ〜すプロジェクト」。8月16日には水戸芸術館で「パイプオルガン・プロムナードコンサート」の特別版として、パイプオルガンの演奏を挟みながら、平和作文コンクールにて優秀な成績を収め、平和大使として広島に派遣された2人の小中学生（水野拓末さん〔稲荷第一小学校5年〕、軍司七聖さん〔茨城大学教育学部附属中学校1年〕）がその作文を朗読した。オルガン演奏は、東京芸術大学などで教鞭を執る椎名雄一郎さん。J.S.バッハ〈前奏曲とフーガト長調〉BWV541、ポエルマン〈ゴシック組曲〉作品25より「聖母の祈り」、メンデルスゾーン〈オルガン・ソナタ第6番 二短調〉作品65の6などが演奏された。《中村》

2014.8.23

アルディッティ弦楽四重奏団 ～結成40周年記念演奏会～

現代作品をレパートリーに世界のトップを走り続けるアルディッティ弦楽四重奏団の結成40周年を記念する公演。現代の音楽創造の出発点とも言える新ウィーン楽派の作品と彼らが真に評価する今日の作品をという当方のリクエストに応じて、彼らは水戸オリジナル・プログラムを用意してくれた。冒頭は、シェーンベルクの弟子ベルクの作品。続く2曲は、同楽団を主宰するアーヴィン・アルディッティ氏と同郷の2人のイギリス人作曲家、ファーニホウトとパートウィスルの作品が選ばれた。そして最後に、シェーンベルクの記念碑的な最初の無調作品〈弦楽四重奏曲第2番〉を取り上げてもらった。同作品で共演したソプラノのサラ・マリア・ズンは、アルディッティ氏もその実力を認める現代作品のスペシャリストで今回が初来日。曲間には音楽評論家の片山杜秀氏による作品解説やアルディッティ氏へのインタビューが行われた。《中村》アンケートから ■片山氏、アルディッティ氏他演奏者の曲についてのコメントがよい指針となって、現代音楽だからと構える必要なく楽しみました。（つくば市の方） ■無調の音楽がこれほど情念に訴え、かつ情念から生み出されていることを知らしめる演目であり、圧倒的な演奏であったと思う。（品川区：H.T.さん） ■全曲を通して、超絶技巧などこの団体の演奏の技量の高さに圧倒されるとともに、現代音楽の流れを俯瞰する演奏会になっていたと思う。紅一点のソプラノが入ったシェーンベルクの曲では、混沌の中に救いを見る気がした。（水戸市：T.M.さん）

2014.9.20

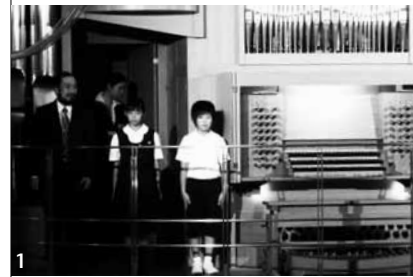
ちょっとお昼にクラシック 大萩康司（ギター）×三浦一馬（バンドネオン）

今回の「ちょっとお昼にクラシック」にご登場いただいたのは、ギタリストの大萩康司さんとバンドネオン奏者の三浦一馬さん。ソロ曲は、バンドネオンで〈アディオス・ノニーノ〉、ギターで〈フェリシダージ〉が披露され、三浦さんの躍動感溢れるドラマチックな表現力、大萩さんの詩的で研ぎ澄まされた「魅せる」表現などをお楽しみいただいた。ピアソラ作品などのデュオ曲は、情感豊かなフレージングやスリリングな音の掛け合いなど、気分知れたこのお二人ならではの聴かせどころ満載。絶妙なコンビネーションで満席の会場を魅了した。アンコールは、ピアソラ〈リベルタンゴ〉、ディアンス〈タンゴ・アン・スカイ〉。《高巣》アンケートから ■ギターとバンドネオンの音色が、感情をこんなにも表現し、訴えかけてくることに感動しました。（無記名の方） ■バンドネオンの生演奏は初めてでした。非常に奥の深い音で、感動しました。パリのカフェにいるような感じがしました。（水戸市の方） ■若々しいお二人の演奏とマナーがとても清々しい感じでとても良かった。演奏もわくわく感いっぱい聴きました。（水戸市の方） ■若い2人のアーティストのほとばしるエネルギー、あふれる情熱的な演奏に魅了されました。ギターとバンドネオンの音色が響き合い、素晴らしかった！！（水戸市の方）

2014.9.28

坂口大介（サクソフォン）・高野綾（マリンバ）デュオ・リサイタル

サクソフォンとマリンバの二重奏という比較的珍しいアンサンブルの演奏会を企画したのは、「茨城の名手・名歌手たち」出身の坂口大介さんと高野綾さん。演奏会の副題「木の鳴るとき、金の筒が響く」は、一見似ても似つかないこの2つの楽器の共通点（発音体と共鳴体）に由来している。この楽器編成のために作られた2つの作品に加えて、編曲作品、それぞれの独奏、お二人の自作自演もあり、2つの楽器の魅力と組み合わせの妙味が詰まったリサイタルとなった。アンコールはチック・コリア〈スペイン〉。《篠田》アンケートから ■マリンバの優しいなかに重みのある響きと、サクソフォンの哀しい調べが全身に響きました。（水戸市の方） ■2つの楽器が絶妙にマッチして、思いもよらないハーモニーを奏でていて素晴らしかった。（日立市の方） ■フルートとギターのために作られたピアソラ〈タンゴの歴史〉が、サクソフォンとマリンバで素敵に変身をとげていて感動しました。マスランカ〈ソング・ブック〉の神秘的で美しいメロディから、映画の数々の場面を思い浮かべました。茨城出身の若き2人の演奏者に拍手拍手です。（水戸市の方）



1：パイプオルガン・プロムナードコンサート
2-3：アルディッティ弦楽四重奏団
4-5：ちょっとお昼にクラシック 大萩康司×三浦一馬
6：坂口大介・高野綾 デュオ・リサイタル

チケット・インフォメーション 《10月25日(土) 発売分》

■コール・ヴィステリー

2/15 (日) 14:00 開演
料金 [全席自由] ¥1,000

■谷田部ひさみ ピアノ・リサイタル

2/22 (日) 14:00 開演
料金 [全席自由] 一般 ¥2,000 / 学生 ¥1,500

■ちよっとお昼にクラシック 松波恵子 (チェロ) と素敵な仲間たち

2/27 (金) 13:30 開演
料金 [全席指定] ¥1,500 (1ドリンク付き)

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20席以上) △…残席わずか (20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎ミシェル・ブヴァール オルガン・リサイタル
……………10/24 (金) 1F○、2F△

◎新ダヴィッド同盟 演奏会
……………10/31 (金) 中央×、左右・裏○
……………11/2 (日) 中央×、左右・裏○

◎河村尚子 ショパン・プロジェクト 第1回
……………11/8 (土) 中央△、左右○

◎宇野陽子 チェロ・リサイタル……………11/16 (日) 自由席○

◎ちよっとお昼にクラシック 池上英樹 (マリンバ、打楽器)
……………11/24 (月・振) 中央○、左右○

◎山本徹 バロックチェロ・リサイタル……………11/30 (日) 自由席○

◎ラテック・パボラーク&アレシュ・パールタ デュオ・リサイタル
……………12/8 (月) 1F○、2F△

◎クリスマス・プレゼント・コンサート 2014
……………12/23 (火・祝) 中央○、左右○

※9/30 (火) 現在の状況です。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な11月のスケジュール

コンサートホール ATM

■新ダヴィッド同盟 演奏会

10/31 (金) 19:00 開演 [Aプログラム]、
11/2 (日) 16:00 開演 [Bプログラム]
料金 [全席指定]
[1回券] A席 ¥5,500 / B席 ¥4,500 / ユース (25歳以下) ¥2,000
[A・Bプログラムセット券] A席 ¥10,000 / B席 ¥8,000 / ユース (25歳以下) ¥3,500

■河村尚子 ショパン・プロジェクト

第1回「バラードとノクターンを中心に」
11/8 (土) 16:00 開演
料金 [全席指定] 一般 ¥3,500 / ユース (25歳以下) ¥1,000

■宇野陽子 チェロ・リサイタル

11/16 (日) 15:00 開演 料金 [全席自由] 一般 ¥3,000 (前売り ¥2,500) / 学生 ¥1,500 (前売り ¥1,000)

■ちよっとお昼にクラシック 池上英樹 (マリンバ、打楽器)

11/24 (月・振) 13:30 開演 料金 [全席指定] ¥1,500 (1ドリンク付き)

■山本徹 バロックチェロ・リサイタル

11/30 (日) 15:00 開演 料金 [全席自由] 一般 ¥3,000 / 学生 ¥1,500

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート 入場無料

□11/3 (月・祝) 青木早希 13:30 ~ (45分程度)
□11/29 (土) 長田真実 12:00 ~ / 13:30 ~ (各回30分程度)

■プロムナード・コンサート EXTRA 入場無料

11/22 (土) 山本彩子 (メゾソプラノ)、吉永哲道 (ピアノ)
12:00 ~ / 13:30 ~ (各回30分程度)

ACM劇場

■ACMファミリーシアター『大どろぼうホッツェンブロッツ』

11/8 (土)、15 (土) 13:00 開演、11/9 (日)、16 (日) 11:00 開演
料金 [全席指定] 大人 ¥2,000 / こども (4歳から小学6年生) ¥800

■萬狂言水戸公演 2014『隠狸』『牛盗人』

11/24 (月・振) 14:30 プレ・パフォーマンス・トーク、16:00 狂言公演
料金 [全席指定] S席 ¥4,500 / A席 ¥4,000 / B席 ¥3,500

現代美術ギャラリー

■ジョン・ヨンドウ 地上の道のように

11/8 (土) ~ 2015年2/1 (日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は17:30まで
[休館日] 月曜日、年末年始12/27 (土) ~ 1/3 (土)
※ただし11/3 (月・祝)、11/24 (月・振)、2015年1/12 (月・祝) は開館、
11/4 (火)、11/25 (火)、1/13 (火) は休館
[入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体 (20名以上) ¥600
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

■クリテリオム89 GABOMI ※料金は展示会の入場料に含まれます。

茨城の主な11月の演奏会

■茨城県立県民文化センター (大ホール) TEL / 029(241)1166

・スロヴェニア・マリポール国立歌劇場「アイダ」11/4 (火) 18:30 開演

■ひたちなか市文化会館 (小ホール) TEL / 029(275)1122

・《3才からのコンサート体験》おやこ de クラシック vol.8
11/9 (日) 13:30 開演

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
営業時間: 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

秋のさわやかな風に乗って、香ってくる金木犀。毎年、この時期になると、小学校の終わりまで住んでいたあの家を思い出します。庭の金木犀の木登りに夢中で、傷だらけだった当時のアクティブな自分もなつかしいです。(り)

先日、都内のイベントで街中で突然演奏を始めるというフラッシュモブを初めて経験しました！今まで、驚かす事も驚かされる事も特にありませんでしたが、なんと驚かす側！その場にいる皆で楽しめる空気に感動でした(稲)

河村尚子さんのショパン・プロジェクト第1回に合わせて、常陽藝文センターの藝文学苑つくば教室でクラシック入門講座「ショパンはいかが？」(コンサート含め全3回)を開催します。第1回は10月24日(金)13時から。(篠)

今年は秋の訪れが早かった。日が暮れてからの虫の音の大合唱も、萩や金木犀の開花も、秋の花粉症発症も。さらには“食欲の秋”も全開になってひさしい。迫りくる健康診断を前に今年もなす術なしか！？(増量中ので)

秋の夜は虫の声に癒される。眠る前のひとときを、自然の音風景が静かに演出してくれる。クラウス作『野生のオーケストラが聴こえる』を読み、生きものたちが奏でる音にもっと耳を澄ませてみようと思う今日この頃。(樹)

大学時代の同期の仲間が書いた小説「地球先生」が、文庫化されたことで、遅ればせながら読んだ。日雇い労働で生活をつなぐ若者がどん底から這い上がる再生の物語。人生を諦めないというメッセージが熱い。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
2014年11月発行 第192号
編集発行: 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL <http://arttowermito.or.jp/>
編集: 水戸芸術館音楽部門 (五十音順) / 石井亮子
稲田枝里子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン: 藤澤純子
印刷所: 山三印刷株式会社